

カリタス女子中学校 第二回入学試験

二〇二四年二月一日（午後）実施

# 国語問題

（五〇分）

\*答えはすべて解答用紙に記入すること。

\*字数の指定がある場合は、句読点や記号をふくむこととします。

一 次の①～③の——部の漢字をひらがなに改め、④～⑦の——部のひらがなを漢字に改めなさい。④～⑦で送りかなを必要とするものについては、送りがなも書くこと。

- ① アンコールに応える。
- ② 全く関わらない。
- ③ 無防備な子ども。
- ④ 発表会にまねく。
- ⑤ きぬ織物。
- ⑥ 空が夕焼けにそまる。
- ⑦ てつぼうの練習。

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。※のついている語は、文章のあとに語注があります。

麹こうじは、カビという微生物びせいぶつの一種です。以降は麹菌きんと呼びます。

「え？ カビなんて食べて大丈夫だいじょうぶなの？」と不安に思う方もいらっしゃるのですが、大丈夫だということは、我々日本人が長い時間をかけて証明しています。

また、例えばブルーチーズ製造に青カビを使うなど、日本以外でも人間はカビを食べ物に利用してきました。

一口にカビといっても色々で、人間の体に害となるカビもいれば、害とならない上に、味をおいしくしてくれるカビもいるのです。

A  
その中でも、日本の麹菌は特異な存在です。

まず麹菌というのは、肉眼では見えなくても、温暖で湿度しつどの高い場所であれば空気中のどこにでもいます。

何をしているのかというと、でんぷん質やタンパク質にくつついて、それを食べて代謝活動をし、  
B  
酵素こうそを多量に出し、その酵素で元の物質を分解します。

ですから、太古の昔にはお米に勝手に麹菌がくつつき、勝手に発酵した液体ができ、それを人間が発見したことでお酒というものがこの世に生まれたのだと思います。

一説には、縄文時代じょうもんにはすでにお酒を造っていたという話もあります。

その頃から麹菌こう菌は、我々の近くにいたのです。

麹菌の学名は、「アスペルギルス」と言います。

ただし、「麹菌」という1種類のカビがいるわけではなく、さまざまな種類の麹菌がいます。

日本で主にお酒造りに使われる麹菌は次の3つです。

- ・ 主に日本酒を造る時に使われる黄麹
- ・ 沖縄生まれの黒麹
- ・ 黒麹の突然変異で生まれた白麹

そもそも、麹こうに種類がある、ということもあまり知られていないのですが、日本で造る日本酒、焼酎しょうちゆ、甘酒といったお酒にはほぼす

べて、この3種類のいずれかが使われています。

「アスペルギルス」のグループのカビは、世界中を見れば他にも存在します。

ただし日本の麹たちと大きな違いがあります。

それは、「日本の黄麹・黒麹・白麹にはカビ毒を出す遺伝子がない」のに比べ、海外に多くいる「アスペルギルスフラバス」という同じグループのカビは、「かなり強い毒を出す」という点です。

これが、日本の麹菌が唯一無二である理由です。

「毒を出す遺伝子がない」ということは、日本の研究者たちが総力をあげてゲノム解析(遺伝子解析)をし、突き詰めて研究した結果、2005年に出した答えです。

一般的なカビという微生物は、やはり人間の体に毒となるものが多いのです。

1 この黄・黒・白の3種類の麹菌には、カビ毒を出す遺伝子そのものがない。または、遺伝子変換をされたかのように、そうした悪影響を及ぼす部分が欠損していたりするので。

これには長年麹とみっちり付き合ってきた私も、本当に驚きました。

長年の経験上、麹菌が毒を出していないことはわかっていましたが、ゲノム解析のようなミクロの解析をして、はっきりと証明されたのですから。

地球上に星の数ほどいる微生物の中でも、なぜか日本でしかうまく培養できず、毒性を持たず、人間に害をなさず、食べ物や飲み物をおいしくしてくれる麹という存在。

本当に不思議な生き物です。

黄・黒・白の麹は、これまで基本的には日本でしかうまく培養できませんでした。

その理由のすべてはわかりませんが、ひとつには、麹が生きるのにちょうどいい温度と湿度などの外的環境が揃っていること、またそれに加え、日本人の勤勉さ、丁寧さなどの性質的なものが、大きな理由になっていると思います。

本書の冒頭からお話ししているように、日本の食文化の歴史は、麹と一緒に歩んできた歴史です。

味噌・しょうゆ・みりん・穀物酢。

これらの調味料はいずれも、作る過程で麴が使われています。

日本酒・焼酎・甘酒。

これらのお酒にも、造る過程ですべて麴が入っています。

〳和食〳は麴がなければ成り立たないのです。味噌汁もお寿司も、麴がなければ食べられなかったかもしれません。かつお節に関しては、黄・黒・白の麴とは違いますが、カワキコウジカビという麴の仲間のカビを付着させて作ります。

ちなみに納豆だけは、麴ではなく納豆菌という細菌を使って作ります。

麴菌自体は海外にもいるのかもしれませんが、それを飲み物や食べ物に活かすためには、まず我々のような種麴屋が初めに種麴を作る必要があります。

焼酎なら黒麴か白麴の種麴を作り、それを蔵元※くらもとが購入こうじゅうし、焼酎を造ります。

日本酒の場合は、黄麴を使った日本酒用の種麴を作る種麴屋があり、日本酒の蔵元はまずそれを購入します。

この種麴の作り方は日本人が編み出し、長い時間をかけて伝えてきたものです。かなりの根気と技術、観察力が必要な作業で、現在はある程度の部分は機械で行えるようになってはいるのですが、C 一□一□にできるというものではありません。

ですから、海外で一から作ることはなかなか難しいのです。

これが D 日本でのみ麴の食文化が続いてきた理由だと思います。

2 麴は、何がそんなにすごいのでしょうか。

一番に挙げられる理由は、酵素の産生力です。〳酵素の宝庫〳とも呼ばれるほど、麴は数多くの酵素を分泌※ぶんびつするのです。

分泌される酵素の種類は膨大ぼうだいで、100なのか1000なのか、まだその全容は解明しきれいてませんが、中でもでんぶん質を消化して糖分に分解するアミラーゼ、タンパク質をアミノ酸に分解するプロテアーゼ、脂肪しぼうを分解するリパーゼの3大消化酵素が豊富あまに含まれています。

我々が事業に利用しているのは、その中のアミラーゼとプロテアーゼですが、麴が出すすべての酵素をひとつひとつ追っていくのは不

可能に近いでしょう。

酵素というのは簡単にいうと、何か物質を変化させる時に触媒※しよくばいとして使われるものです。主にタンパク質で構成されています。人間の体で説明すると、食べ物を食べて消化吸収し、代謝や排泄はいせつをするといった活動のすべての段階で、酵素が働いています。

酵素が働いて物質の大きさや形を変え、分解するから、食べたものを体の中に取り入れる、不要なものを排泄するなどの代謝活動がでさるのです。

哺乳類ほにゅうるいだけでなく、すべての生物は酵素が働いて代謝活動をしています。

麴こうでいえば、麴が分泌した酵素が野菜や米などの元の物質に作用して、味をおいしくしたり保存性を高めたり、健康によい物質を生み出したりするので、私たちはその性質を利用して、おいしい食べ物やお酒を造ってきたのです。

洗剤せんざいで「酵素パワー」を謳うたっているものがあつたり、化粧品けししょうで「酵素洗顔」という言葉を聞いたことがありますか。

これは、酵素の分解能力をうまく利用して、油を「分解」して汚れを落とす、という発想から生まれています。

麴はその酵素を膨大な量分泌するわけですから、物質を分解したり、元の性質と違うものに変えたりすること、**3** 発酵という行為こうゐがとても得意な生き物なのです。

そもそも我々が種麴を作るプロセスの中で、まず一度、発酵しています。

そうやって作られた種麴を酒蔵や麴を販売する麴屋さんが購入し、酒蔵はお酒を造る、麴屋さんは種麴を元に自分たちでさらに麴を作ったり、味噌や塩麴などの発酵食品を作ったりします。さらに、味噌や塩麴に食材を漬つけけ込むなどして、家庭で発酵食品を作る方もいます。

ですから麴は、私たちが種麴を作る段階でまず発酵し、そこから嫁よめいだ先でも生きてさえいれば、さらに発酵し続けているわけです。

麴と発酵は切っても切り離はなせない関係で、麴の生体そのものが発酵とイコールである、ともいえるのです。

〈 中 略 〉

「食べる」以外の発酵の利用法の中でも最も期待がかかっているのは、さまざまな環境問題を解決するひとつの方法としての利用です。

このことは、環境問題に興味がある方はすでにご存じだと思いますが、しかしまだまだ一般的にはよく知られていません。

まず大きな利用法として、<sup>E</sup> クリーンエネルギーを作る際の重要なプロセスを発酵が担っています。

例えば発電です。バイオマスという、自然界の動植物と微生物などの有機物を資源として考え、エネルギー資源として利用するという方法があります。

間伐材や家庭から出る生ごみ、畜舎から排出されるし尿などの、再生可能な生活資源を利用して発電する方法が、バイオマス発電。火力、風力、水力発電でも原発を使った発電でもない新しい方法として期待されていますし、すでに少しずつ実用化されています。

このバイオマス発電の方法も大きく3種類あるのですが、その中のひとつは、家畜の糞尿や家庭の生ごみ、下水の汚泥などを発酵させてメタンガス化し、そのガスを燃やしてガスタービン<sup>\*</sup>を回して発電する、という方法なのです。

家畜の糞尿の処理については世界中で大きな問題になっていますし、家庭用の生ごみもそうやって発電に利用できるのであれば、処理のためにただ燃やすよりずっと有効な使い方、リサイクルループを作れることになります。

その糞尿や生ごみをうまくガスに変換する方法こそ、微生物たちが行う発酵の力によるものなのです。そこに麴が加わるとまた別のこともできるのですが、それは次の項目でお話ししましょう。

また、バイオマスを使ってバイオプラスチックを作るといふプロセスにも、発酵があります。

ある種の微生物が発酵によって水素を作るため、その水素と酸素で電気を作るといふ試みもあります。

もうひとつ身近な場所での大事な利用法としては、下水処理があります。

日本では戦後の復興に伴って工業が発展していった半面、工場から排出される産業排水による河川の汚染が大きな問題となりました。

その汚染を解決する糸口となったのが、微生物による発酵でした。現在も有機性排水処理の主流となっているのは、この方法なのです。ただこの方法でもさらなる汚泥が発生するなど100%いいことづくめではなく、いくつか問題点があるため、近年ではその問題点を解決するための新たな技術も開発されています。

そして、そこにもまた発酵が利用されています。

一口に環境問題と言っても現代はあまりに多くの課題がありますが、発酵というある意味自然現象が、その多くの問題の解決の糸口になるのですから驚きです。

〈山元正博『発酵食品はおいしいクスリ』（ポプラ新書）より〉

〔語注〕

※培養……………ここでは人工的に育てて増やすこと。

※蔵元……………酒・しょうゆなどの製造元。

※分泌……………ここでは排出すること。

※触媒……………他の物質の反応をうながすために働く物質。

※ガスタービン……………ここでは、電気を作るために必要な機械。

問一

1 2 3 にあてはまる言葉としてもっともふさわしいものを、次のア～エの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えな

さい。ただし、同じ記号は一度ずつしか用いないこととします。

- ア では      イ なぜなら      ウ ところが      エ つまり

問二

A その中でも、日本の麹菌は特異な存在です。とありますがそれはなぜですか。「～から。」に続くように本文中から十二字でぬき出して書きなさい。

問三

B 酵素 とはどのようなものですか。その説明となっている次の文章の【①】～【③】に適切な言葉を入れ、文章を完成させなさい。言葉は【一】内の指定の字数で本文中からぬき出して書くこと。

主に【① 五字】で構成されており、触媒として【② 八字】を変え、すべての生物が【③ 四字】をするために必要なもの。



問四 C  
一□一□とありますが、「わずかな時間」という意味の四字熟語になるように□にそれぞれ漢字一字を入れなさい。

問五 D  
日本でのみ麴の食文化が続いてきた理由とは何ですか。六十字以内で書きなさい。

【下書き用】


60

問六 E  
クリーンエネルギーを作る際の重要なプロセスを発酵が担っています。について、次の(1)(2)に答えなさい。

(1) 「クリーンエネルギーを作る」など「環境問題を解決する」上で発酵が担っているプロセスについて述べた次のア〜オの中から、

あやまっているものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 産業汚水おすいに対して有機性排水処理はいすいをする。

イ 糞尿かんにょうや生ゴミなどからガスを発生させる。

ウ バイオマスを使いバイオプラスチックを作る。

エ メタンガスを栄養素としてバイオマス発電をする。

オ 微生物びせいぶつを利用し水素を生成することで電気につなげる。

- (2) エネルギーを作る際に発酵が重要なプロセスを担っているエネルギーを「クリーンエネルギー」と呼ぶのはなぜですか。「発酵」という言葉を必ず入れて八十字以内で説明しなさい。

【下書き用】


次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。※のついている語は、文章のあとに語注があります。

小学五年生の「百音」は、五歳の時父母を事故で亡くし「統理」に引き取られて育った。「統理」は「百音」の母が過去に結婚していた男性で、母は「統理」と離婚した後、再婚して「百音」を産んだ。

そのような事情から二人の共同生活を「変わっている」と見る人もいるが、「百音」は今の生活をとても気に入っている。

二人が住むマンションの屋上庭園には神社がまつられており、「屋上神社」と呼ばれて近所の人のいこいの場となっている。「統理」はその神社の宮司（神社に任せ、管理全般を行う人）でもある。

夏休みが終わるといふ、恐れていた事態になってしまった。

宿題は統理と路有に手伝ってもらってかたづけだし、工作の人形作りは桃子さんに手伝ってもらってかわいく仕上がったし、読書感想文は大好きだから問題なし。

問題はこの気分のノラなさだ。

二学期がはじまって三日目の五時間目、しかも道德の授業。クラスメイト全員から、眠い、帰りたい、という無言のチームが先生に向かって発射されている。前の席の子からプリントが回ってくる。今日の議題は――。

「今日は『思いやり』について話し合いたいと思います」

みんなの眠いチームは出力マックスになった。

プリントには **A** 短い話が載っている。アイコちゃんとユウコちゃんは親友同士です。アイコちゃんは本を読むのが好きで、図書館をよく利用します。ユウコちゃんはアイコちゃんともっと仲良くなりたくて、アイコちゃんが次に読みたいと言った本を先に借り、その話がどれだけおもしろかったかアイコちゃんに教えてあげるようになりました。ユウコちゃんはアイコちゃんと本について話をできることが嬉しく、それから次々とアイコちゃんが読みたいという本を借りて読みました。ある日アイコちゃんから怒られました。

――わたしが読みたい本を先に借りないで。

ユウコちゃんは理由がわからず悲しくなりました。

「アイコちゃんはどうして怒ったんだろう？」

先生が黒板に問題点を書き上げ、振り返ってわたしたちに問いかけた。

——どうしてもなにも、全部、嫌だからでしょ？

これから読もうと思っている本の内容をバラされたら楽しみがなくなっちゃうし、<sup>B</sup>自分は何んにも調べないで横取りするのもモヤモヤする。それがわからないんだとしたら、ユウコちゃんは【C】がなさすぎる。ああ、思いやりって【C】のこともかもしれない。みんなが意見を出し合い、思いやりとはなにかを話し合った。そして残り時間を切ったあたりで、そろそろ答えが出たかなと先生がまどめに入った。

「思いやりとは、自分がされて嫌なことを人にもしないことです」

今日の授業について感想文を書くことが宿題に出され、1 二学期三日目が終了した。

仲のいい子たちと下校しながら、みんなで『嫌なこと』について話しあった。

「あたしは留守番が嫌だなあ」

サトちゃんと言う。サトちゃんのお母さんは、サトちゃんも五年生になったんだからという理由で、以前勤めていた会社に復帰したそう。夜中にトイレで目が覚めたとき、サトちゃんはお父さんとお母さんが話をしているのを聞いた。お母さんは生き甲斐がほしいと言っていた。お母さんがビールを飲んでいるところをサトちゃんは初めて見たという。

「生き甲斐ってなに？ 帰っても誰もいないし、いつも疲れたって言ってスーパードのおかずチンのときあるし。そんなに疲れるなら働かなきゃいいのに」

「えー、ひとりのほうが好きなかだけユーチューブ見れて羨ましい」

「そうだよ。うちのお母さんなんてゲームするな勉強しろってすぐ口うるさいよ。2 休みの日はお父さんがご飯作ってくれるけど、お母さんそれにも文句言うんだから。こんないいお肉使ったらおいしいに決まってるでしょとか、後かたづけもちゃんとしてよとか」

お母さんの言い分もわかる、とわたしは思ったけれど黙っていた。よそのおうちのことに口を出すのはよくない、とわたしは経験から学んでいる。みんな事情があるものだ。

「お父さんがご飯作ってくれるっていいね。うちのお父さんなんもしないよ」

「うちも。ごろごろテレビ観てるだけ」

「お昼間は働いてるんじゃない？」

「見たことないもん。たまにおみやげ買ってきてくれるけど」

みんながお父さんやお母さんについて話す中、サトちゃんのはつとわたしを見た。

「ごめん、百音ちゃん」

**3** 謝られ、わたしはきよとんとした。

「百音ちゃん、お父さんとお母さんいないんだよね」

他のみんなもはつとした。ごめんね、わたしは思いやりがなかった、嫌なこと言っちゃったと口々に謝られ、わたしはきよとんとしたまま、いいよいいと首を横に振り続けた。

屋上神社でおやつを食べていると、水遣りを終えた統理と路有が戻ってきて、やれやれと腰を下ろした。今年はずい暑さで、屋上はまだサルビアや百日草が咲いている。

「もう九月だつてのにいつまで暑いだ」

「オーストラリアで道路が溶けたらしい」

「ここが溶けないことが不思議だな」

ふたりは水を張ったバケツの中から蜜柑ゼリーを取り出した。わたしはお先に白桃のゼリーを食べている。つつき回すばかりで、やわらかいゼリーはどろどろになっている。

憂鬱なわたしの目の前を、ユヅルくんが通り過ぎていく。一日一度は必ずお参りにくる氏子のお婆ちゃんと手をつないでいる。ユヅルくんは幼稚園の年長さんで、大人になったらわたしをお嫁さんにもraitたいと言う。わたしはもらってくれなくていいと答える。

お嫁さんになろうと、わたしはわたしのものだ。誰にもあげたくない。百音ちゃんとユヅルくんが手を振ってくる。わたしは頬杖をついたまま、適当に手をひらひらと振り返した。

「どうした。なんか機嫌悪いな」

路有がわたしのほつべたをつついてくる。

「思いやりってなんなのか、ずっと考えてるの」

「なにかあったのか？」

統領が蜜柑ゼリーのシール蓋を剥がしながら訊いてくる。

「道徳の授業のテーマだったの。感想文の宿題も出た」

「難しいテーマだ。それで悩んでるのか」

「悩んでるっていうか」

わたしは今の気持ちのようにぐちゃぐちゃにゆるんだゼリーを見つめた。

「なんかよくわかんない。 E ちよつと嫌な気持ちなの」

「嫌な気持ち？」

どう説明すればいいのか、考えながら話してみた。わたしの本当のお父さんとお母さんは死んでしまった。それは悲しいことだけど、代わりに統領と路有がいる。けれど本当のお父さんとお母さんがいるみんなにとって、親が死んじゃって赤の他人のおじさんと暮らしているということはあきらかな不幸であり、だからわたしの前で親の話をしたことを謝った。自分がされて嫌なことを人にもしないとくい思いやりのルールに則って、みんなわたしを思いやってくれたのだ。みんな優しい。わたしはみんなが好き。それは間違いない。

「なのに、なんでわたしは嫌な気持ちになってるのかな」

「本当にわからないのか？」

わたしはゼリーを見つめ、静かに首を横に振った。

わかっている。でもわかりたくない。わたしはみんなの話を普通に聞いていたのに、勝手に思いやられて、かわいいそうな子扱いをされたことにむつとしている。でもそう言えなかった。わたしはかわいそうじゃないなんて、言えは言うほどかわいそうな子になっていくよ  
うで。

「わたし、優しくしてくれてありがとうねって思えばいいのかな」

「そんなことを思う必要はない」

「でも優しくされたのに嫌な気持ちになるなんて、間違ってるんだよね？」

「間違ってるない。百音の感情は百音だけのものだ。誰かにこう思いなさいと言われたら、まずはその人を疑ったほうがいい。どんなに素晴らしい主義主張も人の心を縛る権利はない」

統理は静かに、けれどきつぱりと言いつつ切った。

「じゃあ先生が間違ってるの？」

「間違ってるない。ただ、段階を踏むことが大事なんだと思う。算数だって最初からかけ算なんてできないだろう。足し算引き算と順番に教えてもらう。今は足し算の段階なんだ」

「誰も間違ってるないのに、わたしだけ嫌な気持ちになるの？」

そんなの不公平だと唇を尖らせると、統理はもつともだとうなずいた。

「本当に不公平だ。でも百音は人よりたくさんのものを持つてる。その分、考えることも増える。考えることは百音の頭や心を強く賢くしてくれる。それはいいことだよ」

「たくさんのもの？」

わたしは首をかしげた。

「わたしはお父さんもお母さんもないし、それってわたしは人より持つてないってことなんじゃないの？ だからみんなわたしをかわいそうって思うんでしょう？」

F 「失うことや持つてないことで得られるものもあるんだ」

ますます意味がわからなくなった。

「そうそう、俺も一時はサッカーカンになったけど、今はたくさん得てるぞ」

路有はゼリーを食べながらのんびりと空を見上げる。

「路有がサッカーカンだったときのこと覚えてる」

彼氏にふられて、うちのリビングでダンゴ虫のように毛布にくるまっていた。

「あのときは百音にも世話になった。ありがとうな。でもそれよりも前から俺はいろいろ失くしてきたし、でも失くしっぱなしじゃなくて、たくさん得てきたんだ」

「路有はなにを得たの?」

「友達、今の屋台バーの仕事、新しい彼氏、統理や百音のお隣さん生活も楽しいし、昔とちがって、自分に嘘をつかずに生きていけることも健康的でいい」

路有はにこりと笑う。確かに路有は毎日楽しそうで、そこは疑う余地がない。失うことで逆に得られるものがある、というのはやっぱりちよつとまだ不公平な気もするけれど、わたしはほんの少し気持ちが晴れた。嫌な思いをすることも、まるつきり無駄ではないということだ。

〈風良ゆう『わたしの美しい庭』(ポプラ文庫)より〉

### 〔語注〕

※路有……………百音の住むマンションの隣室に住む若い男性。百音と統理の部屋にいたりびたり、家族同然の生活をしている。

※桃子さん……………同じマンションの住人。百音の顔見知りの女性。

※氏子……………神社を信仰する人。住む土地の神社を、一族(氏)を守ってくれる「氏神」として信仰する伝統がある。

### 問一

1 3 にあてはまる言葉としてもっともふさわしいものを、次のア～オの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えな

さい。ただし、同じ記号は一度ずつしか用いないこととします。

- ア いきなり      イ たしかに      ウ やつと      エ たちまち      オ たまに



問二 A 短い話 がこの後始まりますが、それが終わるのはどこですか。終わりの十字(句読点をふくめて)をぬき出して書きなさい。

問三 B 自分はなんにも調べないで横取りする とありますが、これは「ユウコちゃん」のどういう行動を指していますか。次のア〜カの中から正しいものを二つ選び、記号を書きなさい。

ア アイコちゃんと本について話をする事。

イ 親友となつてアイコちゃんと仲良くすること。

ウ アイコちゃんに読みたい本が何かを聞くこと。

エ アイコちゃんより先に次に読みたい本を借りること。

オ アイコちゃんと同じように図書館を利用すること。

カ 本の内容をアイコちゃんに教えてあげること。

問四 二カ所の【C】には同じ言葉が入ります。もつともふさわしい言葉を、次のア〜オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 敬意

イ 独立心

ウ 遠慮えんりょ

エ 協調性

オ 想像力

問五 D 誰のお嫁さんになろうと、わたしはわたしのものだ。誰にもあげたくない。とありますが、「百音」のこの言葉は「ユズルくん」のどの言葉に反発して出た言葉ですか。本文中から十字程度でぬき出して書きなさい。

## 問六

E ちよつと嫌な気持ち について述べたものとして、もつともふさわしいものを、次のア～オの中から一つを選び、記号で答えなさい。

A 百音は、周りの友人たちが好意で言っているのはよくわかつているものの、自分の中にわだかまっているモヤモヤした「ちよつと嫌な気持ち」の正体がかみはず憂鬱ゆううつになっている。

I 百音の「ちよつと嫌な気持ち」の中には、自分がされて嫌なことを人にもしなないという先生の示した「思いやり」ルールに対して納得なとくできない気持ちがふくまれている。

ウ 百音の「ちよつと嫌な気持ち」は、友だちが自分を思いやつてくれて自分も友だちが好きなのに、素直に感謝を伝えることができない自分へのいらだちから来ている。

エ 百音は、友だちの同情が見当外れけんちうはずれであることを強く感じているが、それを言葉にすることでかえって自分がみじめな気持ちになりそう。「ちよつと嫌な気持ち」になっている。

オ 百音の「ちよつと嫌な気持ち」は、誰も間違まちがっていないのに、自分だけが嫌な思いをするというのはあまりにも不公平だと感じることから来ている。

## 問七

F 失うことや持つてないことで得られるものもあるんだ とありますが、「失う」経験をしたり「持つてない」環境かんきやうにいたりすることによって、どのようなものが得られると「統理」は考えていますか。四十字以上五十字以内にまとめて書きなさい。

### 【下書き用】


50

40

問八

次の会話は、スマレさんとノバラさんがこの文章について交<sup>か</sup>わしているものです。ここで話題となっている「モノ」とは何でしょうか。会話をヒントにして答えなさい。

スマレさん

この小説の中で作者がくり返して何回も描<sup>びようしや</sup>写している「モノ」があるね。ノバラさん、気がついた？

ノバラさん

くり返されて描写されている「モノ」？

スマレさん

そう。

一見すると小説に直接関係の無さそうな「モノ」、つまりある物体について書いてある部分なんだけど。

ノバラさん

くり返して描写するからには何か特別な意味があるってことだよな？

スマレさん

そうなの。その部分をあらためて読むと、おもしろいことに気がついた。

その「モノ」についての描写がさりげなく人物の心情と重なって、読者の印象をより強める働きをしてるんだ

よね。

「モノ」の描写に隠された意味を読み解いていくおもしろさもある。

ノバラさん

なるほど。

「象<sup>しやうちゆう</sup>徴」っていう言葉があるけど、それに近い働きをしているのが、その「モノ」なんだね。

小説って奥が深いなあ。

国語の問題はこれで終わりです。

\*\*\*\*\*

